

令和7年度 地域に飛び出せ大学生！

おかやま元気！集落研究・交流事業 取組概要一覧

地域に飛び出せ大学生！おかやま元気！集落研究・交流事業とは？

おかやま元気！集落における諸課題について、地域と協働して現状把握、課題分析を行い、課題解決や地域活性化に向けた実践的な手法の検討に取り組む大学を支援する制度です。

令和7年度は8大学延べ11研究室が取り組みました。

目次

- | | | |
|--------------|---|---------------------------|
| 1. 新見市刑部地区 | × | 新見公立大学(地域共生推進センター長宗ゼミ) |
| 2. 西粟倉村大茅地区 | × | 倉敷芸術科学大学(西村研究室) |
| 3. 笠岡市六島 | × | 岡山学院大学(平野研究室、堀口研究室、氏峰研究室) |
| 4. 新見市土橋 | × | 新見公立大学(柳迫研究室) |
| 5. 真庭市二川地域 | × | ノートルダム清心女子大学(地域資源活用ゼミ) |
| 6. 真庭市水田地域 | × | 吉備国際大学(橋本・村上・森井・澤田研究室) |
| 7. 矢掛町江良集落 | × | 岡山大学(床尾研究室) |
| 8. 久米南町山手地区 | × | 中国学園大学(佐々木ゼミ) |
| 9. 美咲町北和気地区 | × | 中国学園大学(佐々木ゼミ) |
| 10. 美咲町南和気地区 | × | 美作大学(松原研究室) |
| 11. 美咲町倭文西地区 | × | 岡山大学(堀研究室) |

1. 新見市刑部地区 × 新見公立大学（地域共生推進センター長宗ゼミ）

趣旨・目的

新見市刑部地域において、地域住民が集まる機会や場所が少なくコミュニティの希薄化が課題となっているため、同じ体験や時間を共有できる居場所づくりとして、「えがおいっぱい！おさかべの家プロジェクト」と題して活動を行った。

このプロジェクトは、新見公立大学まちづくりゼミの学生と刑部地域振興協議会が協働し、刑部地域の住民が気軽に交流できる居場所を作り、笑顔あふれる場所にしようとする取り組みであり、本研究では居場所づくりに有効な企画や、住民のニーズに応じた居場所の空間設計を調査・検証する。

主な取組

福祉サロンを通じた地域住民の交流企画

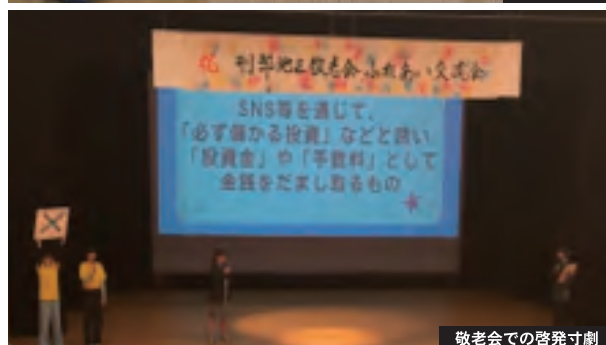
高齢者から子どもまでの多世代が気軽に楽しめるサロンを大学生が主催し、介護予防運動やスイカ割り、クリスマスリースづくりなど季節ごとの企画を年4回開催した。



福祉サロン

地域行事の参加、活動の広報

刑部地域の敬老会やお祭りに参加し、地域の文化を体験するとともに、本プロジェクトの趣旨を地域住民に広報した。敬老会では、本プロジェクトの紹介に加えて、学生が制作した高齢者向けの啓発を目的とした寸劇を発表した。



敬老会での啓発寸劇

居場所づくりの提案・空間整備

刑部地域振興協議会事務所を気軽に集まれ得る居場所とするため、地域住民に利用ニーズのヒアリングを行い、実際におもちゃやベンチなどの必要物品の設置し、地域住民に体験してもらう実証実験を実施した。



居場所の空間づくり実証実験

成果

保育や福祉の視点から学生が考案したサロンを企画し、地域住民に参加してもらうことで、地域住民同士の交流が増え、居場所としての刑部地域振興協議会事務所への来訪者を増加させることができた。

地域住民との意見交換会では、より日常的な居場所を創出するために、住民が居場所に必要なとしている機能や物品、空間のニーズを明確化することができた。次年度は設置した物品を活かし、より日常的に住民が集える空間へとデザインしていく。

2. 西栗倉村大茅地区

× 倉敷芸術科学大学(西村研究室)

趣旨・目的

西栗倉村大茅地区に残る歴史・文化資源を調査し、その成果をマンガ作品として発信することで、地域の魅力や歴史を広く伝えとともに、地域住民との交流を通じて地域活性化に貢献することを目的とする。

主な取組

大茅地区におけるタタラ製鉄や鉄穴流しに関する文献調査

大茅地区におけるタタラ製鉄や鉄穴流しの歴史について調査を行った。地域に残る文献や行政資料、関連研究を収集・分析し、近代化の過程や公害問題、地域社会への影響について理解を深めた。

地域住民への聞き取り調査および現地フィールドワークの実施

地域住民や博物館での聞き取り調査を実施するとともに、タタラ場跡や関連施設、集落内の歴史資源を現地で調査した。住民との対話を通じて、文献だけでは把握できない地域の歴史や暮らしの記憶を収集した。

調査成果を活用した歴史マンガの企画・制作

調査で得られた史料や聞き取り内容をもとに、タタラ製鉄と鉄穴流しを題材とした歴史マンガの企画・制作を行った。地域の歴史や文化を分かりやすく発信することを目的として、ストーリー構成やキャラクターデザインの検討を進めた。

ランタン祭り等の地域行事への参加と地域住民との交流

ランタン祭りをはじめとする地域行事へ参加し、運営補助や交流活動を行った。地域住民との継続的な関わりを通じて地域課題やニーズの把握に努めるとともに、大学と地域との連携強化を図った。



成果

地域に残る歴史資料や住民からの聞き取りを通じて、大茅地区の歴史や文化について理解を深めることができた。また、調査成果をマンガとして表現することで、地域の歴史を分かりやすく発信する新たな手法を提案できた。地域住民との継続的な交流により、学生の実践的な学びにもつながり、地域の魅力発信と人材育成の両面で成果を得ることができた。

3. 笠岡市六島 × 岡山学院大学(平野研究室、堀口研究室、氏峰研究室)

趣旨・目的

本研究室は、笠岡諸島最南端に位置する「六島」を対象に、地域資源を活用した地域活性化について研究を行っている。これまで「六島のエコツーリズムの推進」をテーマに、地域の自然・食文化・暮らしを活かした魅力発信や関係人口の創出に取り組んできた。

本年度は、活動の集大成として、島民と協働した体験型観光プログラム「島民ガイドと歩く六島まるごと体験ツアー」の企画・運営を実施した。また、地域住民・児童・大学生が協働し、地域資源を活用した実践的な活動を展開した。

主な取組

六島小学校との交流活動

児童を対象に食育授業を実施した。食べ物の働きやバランスのよい食事について分かりやすく伝えるとともに、児童と大学生が一緒に調理実習を行った。

晴れの国 島フェスタへの参加

イオンモール岡山で開催された「晴れの国 島フェスタ」に参加し、六島の自然環境や地域活動を紹介した。ブースでは、六島をイメージしたアロマキャンドルづくり体験を実施し、都市部の来場者に対して六島の魅力を発信した。

地域文化の継承と交流

六島大鳥神社の祭りでは、担ぎ手不足となっている神輿に大学生が参加し、地域住民や関係人口と協力して祭りを支援した。また、獅子舞や和太鼓など地域の伝統文化を体験し、世代を越えた交流を深めた。

六島まるごと体験ツアーの開催

島民ガイドによる島内散策と郷土料理体験を組み合わせた体験型ツアーを島民・観光協会・大学生と共同し、開催した。昼食では、大学生と島民が協力して「島御膳」を提供するとともに、郷土料理「さつま」づくりのワークショップを実施した。

成果

本年度の活動を通じて、六島の自然・食文化・暮らしを「体験型プログラム」として発信するモデルを構築することができた。特に、地域住民・児童・大学生が協働して活動を行ったことで、地域内外の交流が深まり、関係人口の創出と地域文化の継承に寄与した。また、学生にとっても、地域住民と共に企画・運営・発信を行う実践的な学びの場となり、地域課題を多面的に捉える力や、地域資源を活かした企画力を養う貴重な機会となった。



4. 新見市土橋 × 新見公立大学（柳迫研究室）

趣旨・目的

大学生が地域に赴き、地域住民と協働しながら中山間地域の課題解決と魅力創出に向けた取組を実施した。

若者の視点を活かし、地域資源の活用やSNS等による情報発信を行い、地域の新たな価値創出と関係づくりの促進を図った。

主な取組

耕作放棄地から広がる地域交流

休耕田を活用したサツマイモ栽培を実施し、地域行事にも継続参加することで住民との交流促進と地域理解を深めた。

サツマイモから生まれる新たな魅力

収穫したサツマイモを活用し、地域住民と協働して特産品（パフェ等）の試作・提案を行い商品化に向けた検討を進めた。

SNSによる魅力発信

地域活動の発信強化に向け、Instagramアカウントの見直しと周知を行い、地域の取組の可視化と関係づくりを推進した。

声でつなぐ関係づくり

継続的な交流と意見交換を通じ住民ニーズの把握を進めるとともに、次年度に向けた調査体制の整備を行った。



成果

本事業では、地域活動への継続的な参加と住民との協働を通じて、地域との関係性の構築が進み、交流の活性化に寄与した。特に、地域行事への参画や意見交換を重ねる中で住民ニーズの把握が進み、参加者の固定化といった課題の改善や、参加しやすい雰囲気づくりにつながった。また、SNSの見直しによる情報発信の強化に取り組むとともに、収穫したサツマイモを活用した特産品（パフェ）の提案を行い、地域資源の新たな価値創出に向けた検討を進めた。今後は、当該特産品を活用した住民交流の機会創出など新たな交流事業にも展開し、地域住民と連携しながら取組を継続・発展させていきたい。

5. 真庭市二川地域 × ノートルダム清心女子大学 (地域資源活用ゼミ)

趣旨・目的

二川地域の在来野菜「土居分小菜（どいぶんこな）」は、生産者の高齢化等により継承の危機に瀕しており、その保存と次世代への継承が急務となっている。しかし、これまで土居分小菜の食品科学的特性に関する研究報告はなく、地域の特産品化を進める上で、特徴の数値化と客観的なデータの把握が大きな課題であった。また、栽培方法や食文化を次世代へつなぐためには、地域住民自身がその価値を「貴重な地域資源」として正しく認知・理解することが不可欠である。そこで本活動では、「土居分小菜魅力発信隊」として、土居分小菜を「知って・伝えて・広げる」ことを目的に、科学的分析と地域を巻き込んだ普及活動を展開した。

主な取組

食品科学的特性の把握（特徴を知る）

春播き土居分小菜の化学分析を実施。特に、ワサビ様の辛味に着目し、「イソチオシアネート」の定量および組成分析を行った。

栽培カレンダーの作成（生産基盤の構築）

誰もが栽培に取り組める環境づくりのため、熟練生産者と共に、土づくりから種まき、防虫などの管理、収穫までを実践。そのノウハウを体系的にまとめた「栽培カレンダー」を作成した。

レシピ集の作成とイベント出展（活用提案と認知拡大）

鮮やかな緑色とワサビ様の辛味を活かした16種のオリジナルレシピを開発し、レシピ集として発行・配布。さらに、大学祭や地域イベント、岡山県庁マルシェに出店し、広く魅力をPRした。

小学校での出前授業（次世代への継承）

真庭市立湯原小学校の6年生を対象に、土居分小菜の歴史や特徴を伝える座学に加え、「土居分小菜クリームパスタ」の調理実習を行い、郷土愛を育む食育を実践した。



土居分小菜の収穫



作成した栽培カレンダーとレシピ集



岡山県庁マルシェへ出展



小学校での出前授業

成果

食品科学的分析により、土居分小菜がもつイソチオシアネート類由来のワサビ様の辛味や、深みのある個性的な食味の特長を客観的な数値データとして立証した。また、生産者への聞き取り調査をもとに歴史的背景や栽培法を整理し、「栽培カレンダー」を作成して持続可能な生産体制の基盤を構築した。さらに、レシピ集の作成、各種イベントへの出展、小学校での出前授業、SNS発信を通じた多角的なプロモーション活動を通じ、地域内外における土居分小菜の認知度向上と、地域資源としての価値再構築に大きく貢献した。

6. 真庭市水田地域 × 吉備国際大学(橋本・村上・森井・澤田研究室)

趣旨・目的

本研究は、旧小学校体育館を大規模災害発生時の避難所として存続させたいという水田地域の要望に応じて、防災拠点として残す仕組みづくりを提案し、「生きた避難所」として「自助・共助・公助」の効率的な組み合わせの実現を目指すことを目的とした。本事業2年目であり、昨年度に続き、大学生が防災サポーターとして活動するための経験値を高めることを前提に、今年度は防災イベントや防災カフェなど参加しやすいイベントで体育館を平時から利用し、楽しみながら水田地区の防災意識を向上させること、防災に関するイベントを定期的に継続することで、地域の方の参加者を少しずつでも増やしていく(イベントのメインは防災でなくても良い)ことを目的とした。

主な取組

自治会長および消防団の方対象の本事業の説明会

今年度の事業への地域住民の参加を促す目的で、自治会長および消防団の方を対象に昨年度の事業報告を併せて防災研修の必要性の講義を実施。

夏場の避難所生活を想定しての防災キャンプ(日帰り)

18名の地域の水田地域の方が「夏場の避難所生活を想定した防災キャンプ」に参加し、ドライシャンプーや歯磨きシートの使い方、正しい手洗い、新聞紙でスリッパ作成、段ボールベッドの組み立てなどを学んだ。

役員の研修会を兼ねた体験型研修会

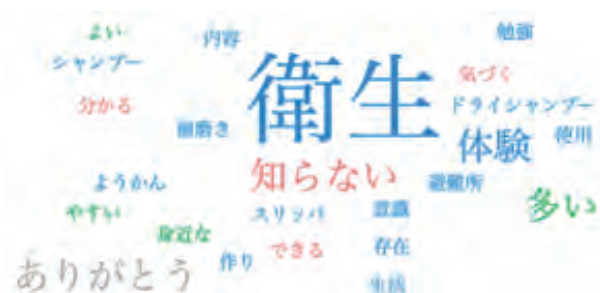
役員の研修会を兼ねて、岡山市の風水害体験施設ツアーを実施した。13名の役員・学生・教員が参加し、流水歩行体験、水圧自動車ドア体験、水圧ドア体験、風雨体験などを通して、早めの避難の重要性を学んだ。

地域交流会での防災グッズの展示および防災ゲームの実施

防災グッズの展示・防災食体験、防災クイズ(全員参加型)を実施

成果

今年度は、昨年度の結果も踏まえ、出来るだけ参加しやすくするため、大掛かりなイベントは控え、ニーズにあった活動を設定し、多くの活動を実施できた。一方で、出来るだけ参加しやすいイベントとしての研修会等を試みたが、多くの地域住民の方の参加には繋がらなかった。次年度は、集落ごとの防災に関する課題を吸い上げ、集落単位での防災研修会等の開催を予定している。



7. 矢掛町江良集落 × 岡山大学（床尾研究室）

趣旨・目的

「住み続けたいまち矢掛町」の実現に向け、「行政サービスは届いているか」をテーマに課題整理と解決策の検討を行う。令和6年度に取り組んだ「交通問題」から対象を広げ、地域住民の関心が高い行政サービス全般について、活用状況や住民満足度の観点から課題を整理し、解決策を検討する。大学生は、地域住民との意見交換や交流の場を通じて、地域の実情を学び、現実を踏まえた提案を目指す。

主な取組

行政サービスの整理やアンケート分析、大学生や地元高校生の意見聴取

- ①矢掛町実施の町民、中高生アンケート
 - ②岡山大学学生アンケート
 - ③岡山県立矢掛高校生徒との意見交換
- により、「住み続けたい矢掛町になるために必要な行政サービスは何か」を分析。

町民と大学生や高校生が重要だと考えるサービスは類似しており、「子育て支援の充実」と「医療・福祉の充実」が重視された。

地域住民と大学生の意見交換・交流

7月と12月に実施。それぞれ意見交換や議論、提案の発表を行った。第一回で指摘された「行政サービスが届いていないのではないか」という課題を、第二回では「何が届いていないか→届けるにはどうしたらよいか」をグループに分かれて議論し、解決策を提案するという形で議論を進めた。

大学生はデジタル活用を考えたが、地域住民との直接対話の中で、その難しさを実感する場面もあり、地域の現状を踏まえた議論や提案ができた。



第一回交流会（7月）：
「住み続けたい矢掛町」の実現に向けて
大学生と地域の方たちが議論



第一回交流会（7月）：
地域の方のご指導で切り出した
「竹」で流しそうめん



第二回交流会（12月）：グループ討議結果発表



第二回交流会（12月）：
交流会参加者と昼食会
地元の食材を使ってポトフ&おにぎり

成果

矢掛町が「住みたい」「住み続けたい」まちになるために何が必要かについて、大学生が地域の現実に向き合いながら提案を行った。長年の大学と地域の交流を基盤に、食事会など本音で話せる雰囲気づくりを行ったことで、地域住民と大学生が活発に議論できた。行政サービスを活用するには「知ること」が重要である一方、必要な情報を得ることは容易ではない現実も再認識した。「届ける側」と「受け取る側」の双方の工夫や、「知る」仕組みの充実の重要性について地域住民と大学生がともに考え、行政サービスや情報発信への理解を深める活動となった。

8. 久米南町山手地区 × 中国学園大学(佐々木ゼミ)

趣旨・目的

【趣旨】山手地区の農産物の有効活用とデジタル技術を用いた情報発信による地域活性化

【目的】大学生の強みを活かした山手地区の課題解決と地域づくりを目的に、

- ①インターンシップ及びイベント（夏祭り）のサポート
- ②山手地区で収穫される農産物（ぶどう、桃など）の有効活用の検討
- ③デジタル技術を用いた山手地区の文化資産の保存と情報発信
- ④山手地区の課題解決の提案（卒業論文作成）

主な取組

インターンシップとイベントサポート

2名の学生がインターンシップ実施を行った。
他のゼミ生（2名）を加えて夏祭り（8月23日）のサポートし、祭りを盛り上げに貢献した。



山手地区でのインターンシップと夏祭りをサポート



農産物の有効活用の検討

管理栄養士を目指す、中国学園大学人間栄養学科安原准教授のゼミ生たちに依頼し、久米南町の農産物（柚子）を使ったレシピ開発と住民（15名）との交流会・食事会を開催した。



交流会・食事会



デジタル技術による文化資産の保存

約100年前に描かれた山手地区の地図（縦5m×横3m）をデジタルカメラで撮影し、デジタル技術やAIを活用し、アーカイブ化した。



約100年前の地図をアーカイブ



ドキュメンタリー制作による情報発信

山手地区のぶどう農家（部会長、新規就農者など）へインタビュー調査を行い、ブドウ園などの動画と合わせ、「久米南町ぶどう部会と山手地区の今」のタイトルのドキュメンタリー動画（13分21秒）を完成させた。



山手地区のドキュメンタリー動画



山手地区の課題解決の提案

「久米南町山手地区の現状と課題解決提案」のタイトルで2年間の活動を通じた体験談を交えて、卒業論文（46枚）にまとめ、報告会にて住民へ解決提案を行った。



山手地区にて活動報告と卒論



成果

インターンシップやイベント運営を通じ、地域住民と協働する実践的なコミュニケーション力を培った。現場体験と論文執筆では、地域の現状を論理的に分析する力を養うことができ、主体性が大きく成長した。

9. 美咲町北和気地区 × 中国学園大学(佐々木ゼミ)

趣旨・目的

【趣旨】北和気地区デジタル技術を用いた情報発信と課題解決提案

【目的】デジタル技術を活用して北和気地区のPR活動を展開し、地域の活性化を図ると同時に、同地区が抱える課題について調査・研究し、具体的な解決策を検討する。

- ①デジタル技術を用いた情報発信
- ②インターンシップ・イベント参加による課題の発見
- ③北和気地区の課題解決の提案（卒業論文）

主な取組

北和気地区 納涼祭

8月に開催された納涼祭に学生6名が参加し、準備ボランティアとお面制作のワークショップを行った。



インターンシップ

9月に学生2名がインターンシップを行った。日中はブルーベリーの収穫作業に励み、夜は地域住民との交流を深めた。



白鷺祭（北和気地区盛り上げ隊）

10月に開催された学園祭（白鷺祭）に「北和気地区盛り上げ隊」がブースを出展し、農産物の販売やどんぐりの飾り制作ワークショップを行った。



ハロウィン祭り

10月に開催された北和気地区のハロウィン祭りに学生3名がボランティアとして参加し、イベントのサポートや地域住民との交流を通して祭りを盛り上げた。



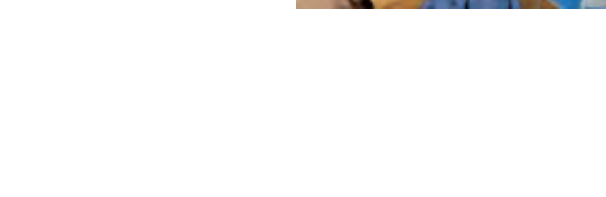
北和気地区のPR動画制作

北和気地区の魅力と学生たちの2年間の感想を交えたPR動画「美咲町の魅力不思議探検へLet's Go!!」を制作した。



報告会と課題解決に向けた提案

「美咲町でのデジタルノマドビジネス実現への課題」というタイトルのもと、卒業論文（計51枚）にまとめ報告会にて発表した。



成果

北和気地区での地域交流や農業体験を通じて、地域の現状や実際に抱える課題を肌で学んだ。その経験を動画による魅力発信や、デジタルノマド誘致による地域活性化の解決策へと結び付けた。住民との交流やフィールドワークを通じ、コミュニケーション力、課題解決能力、主体性が大きく成長した。

10. 美咲町南和気地区 × 美作大学（松原研究室）

趣旨・目的

住み慣れた場所で健康に長く楽しく生活できるように大学生の学びと活力を生かして地域をサポートする。この目的に向け、これまで地域のよりどころとなるカフェの再開をサポートし、地域住民へ健康意識の向上を目指した健康教室の開催などに取り組んできた。本年は地元食材を使用した商品開発をし、地域の認知度を高める活動に取り組んだ。

主な取組

商品開発「みなみわけバーガー」の作成

特産品をたっぷり使ったオリジナルメニューにすることで地域の特徴を出した。イベントで販売しやすく、幅広い年齢層の客様にも手に取っていただきやすいように、ハンバーガーを選んだ。また、今後取り入れやすいよう作業工程が少なくなるよう配慮した。

認知度 UP のための取り組み

ハンバーガーの商品名及び販売時に使用するロゴマークの考案を柵原学園の児童生徒に依頼し、生徒の家族や近隣の方への情報の拡散による、地域を巻き込んだマーケティングを行った。

開発商品普及活動

第2回みさき秋祭りへの参加

地域のイベントに参加し、お披露目を行ったあいにくの荒天だったが75食を売り上げた。南和気荘にて「はやくこいこいお正月イベント」にて「みなみわけバーガー」販売協力を行い50食を販売した。

成果

「みなみわけバーガー」は地元の食材を使用することで地域の経済活動に寄与し、かつ、柵原学園生にロゴマークやネームを募った。応募総数は学園生の過半数にのぼり、地域で関心を集めることができた。新商品は町内のイベントに「学校のパン屋さん」から提供されることにより、地域のよりどころであるカフェも認知度が高まりつつある。3年前から地域のよりどころであるカフェの再開に協力し、そこから聞こえてきた住民の健康問題や関心をキャッチし、健康維持・向上の活動として「骨を丈夫に」「目を大切に」する健康教室を開催した。大学生の学びを活用し、知識のバージョンアップを図ることができた。今年、地域に活力を呼び込むため、またPR活動の一環として「みなみわけバーガー」のレシピを開発し、普及活動に努めた。これらの活動が「住み慣れた場所で健康に長く楽しく生活できる」という目標に近づけたと考える。



11. 美咲町倭文西地区 × 岡山大学(堀研究室)

趣旨・目的

倭文西地域において遊休化したログハウス及び、広大な土地に関して使い道を提案してほしい」という要望に対して、遊休不動産の活用実現に向けた周辺環境整備への提案・実施を目的とした。学生は現地調査及び地域住民との交流から課題を発見し、柔軟な発想から課題解決能力の向上を目指した。倭文西地域住民は学生との交流から新たな知見を得ることで、地域活性化の方針の視野を広げる機会になることを目指した。

主な取組

現地調査

遊休不動産周辺の現状の調査及び、地域散策を通して倭文西地区に対して理解を深めるとともに、地域住民からのニーズの吸収を行った。また、井戸掘りに関する勉強会を行い、井戸掘りの手法だけでなく水脈探しに対する理解も深めた。



協議会参加者

まちづくり協議会・地域イベントへの参加

まちづくり協議会や「どんとこい収穫祭」などのイベントへの参加から交流を深めるとともに、地域に関しての現在の状況について知見を得た。



井戸掘りイベント

井戸掘りの実施

遊休不動産周辺での井戸掘り実施を目的とした井戸掘りイベントを地域で実施した。今回の実施では生活可能な水量は確認できなかったが、井戸掘りと水脈探しに関する経験を学生・地域の方が経験することができた。



現地調査

ホームページの更新

岡山大学DS部と連携して作成した倭文西まちづくり協議会のホームページを更新した。

成果

倭文西地域においての当該プロジェクトにおいて「新たな視点の創出」と「関係人口の増加」という2つの成果を得た。井戸掘りイベントでは、学生と地域の方との交流を深めることができた。学生は学内の学びだけでなく、実際に現地調査やまちづくり協議会への参加、地域イベントへの参加等の学外の学びから幅広い知見が身についた。地域の方々が温かく迎え入れてくれたことで学生が倭文西に愛着を持って活動できた要因だと考える。今後も倭文西に関わりたい学生も多く、関係人口として倭文西地域の活性化に貢献していきたい。